

令和5年度 府立鳥羽高等学校 学校経営計画（スクーリング・メント・プラン）（実施段階）

全日制課程
令和6年3月28日

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自律する人間」の育成をめざし、教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、地域社会から期待される人材の育成を図る。 これからのグローバル時代を生き抜くため、次の6つの資質・能力を育む。 ①歴史をとおりて世界を俯瞰する力 ②多様な文化的背景を持つ人と協働する力 ③科学的に思考・吟味する力 ④新たな価値を創造する力 ⑤課題解決の枠組みをデザインする力 ⑥困難な状況を突破する力	学習指導：観点別評価は生徒が自己の成長を実感できる機会となったが、今後は評価規準や教員間での評価の整合性について継続して協議・検討が必要がある。1年普通科の総合的な探究の時間では、京都府立大学との連携により、生徒の思考力、表現力の育成をはかることができた。理系分野の進学先に対応できるカリキュラムについて、さらに検討を重ねる必要がある。 生徒指導：基本的生活習慣の確立が、鳥羽高校の魅力の一つである「入学してから伸ばす」指導や進路実現につながっている。引き続き、身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、教職員間で一貫した指導を継続する。 人権教育：教職員対象の人権研修を含め、日常的教育活動を行ううえで、さらに人権意識を高める取組の継続が必要である。人権学習の内容によっては事前の教員研修や事後の丁寧な振り返りが必要である。 進路指導：京都南ロータリークラブと連携した1年生対象のキャリア・ガイダンスは、大学進学だけでなく、働くことを意識させるキャリア教育として有意義な取組である。 情報教育：ICTの効果的な活用について、教員・生徒双方が工夫しながら試行した。ICTの正しい活用を目指し、引き続き情報リテラシーを身につけるための指導を継続する。 読書指導：国語の読書課題や総合的な探究の時間の資料探しで図書館利用を推進することができた。今後は、生徒が主体的に読書活動に取り組む活動を考える必要がある。 家庭・地域社会との連携：HP掲載や学校説明会における生徒のボランティア活動や実践発表等をおとして、本校の教育活動を幅広く発信しているが、授業を大切に、部活動をしながら大学に行くことができる鳥羽高校の良さが保護者に十分に伝わっていない。発信方法を工夫する必要がある。	(1) 自尊心の精神を基盤とする人権感覚を涵養し、規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作る。挨拶を大切に、対話（主張と受容）を重視することで主体的な思考を促す。 (2) 学びを第一に学習・部活動等の教育活動を行う。ICTを効果的に活用しながら、学んだことを整理、体系・系統化、応用、共同思考する。 (3) 社会との関連を重視しながらキャリア観を形成しつつ学力を伸長し、希望進路の実現を図る。 (4) 「授業を中心とした学習だけで大学に行ける学校」をモットーに、教職員間で一致した受験指導を行う。 (5) WWL事業実施校として、次の三つの重点項目について取り組む。 ①カリキュラム開発 ②BYODを活かした授業改善、教育的活用 ③グローバル教育の推進 (6) 単位制の特長を活かしながら、新学習指導要領のカリキュラム及び共通テストを見据えた科目研究をさらに進める。 (7) 部活動を通して、各部の目標達成をめざすとともに、自律する人間の育成と個性伸長を図る。 (8) 本校の教育実践や生徒の活動を中学生や保護者に積極的に広報することにより、本校の教育活動への理解を深める。 (9) 働き方改革を進め、生徒と向き合う時間をより多く確保する。

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題	
学習指導	単位制の特長を活かしリベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。	生徒の知的好奇心を高め、あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。	A	A	・全学年がタブレットを所持していたことから、ICTを活用した授業が標準的に行われた。 ・スタディサプリを活用するなど、個々の生徒が主体的に学習に取り組む態度を養うことを意識しながら指導した。 ・観点別評価導入2年目となり、評価に対応した授業のあり方を意識しながら教育活動に取り組んだ。 ・個々の生徒の状況丁寧に見ていくことも大切であるが、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう指導していくことが今後の課題である。 ・スポーツ・教養コースの1年生がスキー研修を実施するなど、コースの特色化を図ることができた。 ・各学年、各教科と連携し模擬試験ごとの分析を行なうとともに、授業改善に繋がる課題を見据えることができるよう取り組んだ。
		「鳥羽の学びネットワーク」とICTを活用した教科横断的な活動により、学びの質や深まりを強化する。	A		
		単位制及び観点別評価の実施による学習状況調査、授業評価、学力状況等の検証を行い、学科やコースの特色に応じた教育活動の改善を行う。	A		
生徒指導	ルールとマナーを守る態度を育成する。	基本的生活習慣の確立、安全指導及び問題事象の未然防止について、その目的・基本姿勢を確認し、教職員が一致した基準・方法で指導する。	A	A	・鳥羽高校としてのルールやマナーについて、生徒指導部が中心となって学年部と連携を密にしながら、生徒にとって納得できる生徒指導を行った。 ・服装規程について、性の多様性の観点を踏まえた改定について検討をすることができた。 ・学校行事等では、内容を精査しながらコロナ禍以前の状態に戻すことができた。集合については5分前集合の意識を持たせることができた。次年度も継続して意識を持たせていく必要がある。 ・iPadやSNSを介した問題行動に対する指導が増加した。安易な考え方で冗談・いたずらの延長として問題となったことが多いことから、次年度はその点を念頭に置いて対応していく必要がある。 ・本校の校風やアイデンティティを大切にしながらも、時代や社会情勢を見定めつつ生徒指導のあり方を模索していく必要がある。 ・遅刻過多の生徒に学年部と連携して指導を行ってきたが、改善に結びつかずに生徒もいた。基本的生活習慣の確立という観点から、次年度も取り組んでいく必要がある。
		挨拶を交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。	A		
	生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力を養う。	A			
	部活動を通して、技能を修得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。	A			
	ルールとマナーを守り、自己を尊重する人間関係を築き、違いを認めあう寛容な心を育てる。	A			
組織的にいじめの未然防止を図る。	いじめについての理解を深め、「いじめ防止対策推進法」「京都府いじめ防止基本方針」「鳥羽高等学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめの未然防止、早期発見を図る。	A	B		
人権教育	あらゆる教育活動をおとして人権教育を推進する。	自己を尊重し人権問題を自分ごととして考える精神を養い、多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育を推進し、教職員研修を充実させる。	A	・教職員研修について、初めてLGBTQ+に関する内容で実施した。次年度以降の生徒の人権学習の内容として検討できる。 ・生徒の人権教育を実施する際、事前学習の時間の確保が課題である。	
進路指導	生徒一人一人の進路希望を実現する。	分掌、教科、部活動との連携のもと、組織的な指導体制により、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。	A	A	・京都南ロータリークラブと連携した1年生対象のキャリア・ガイダンスは、将来働くことを意識させる取組として有意義であった。 ・今後は、過去から継続して培われてきた進路指導のあり方を基盤に置きつつ、「活字を読んで考える」「書いて思考を整理する」学習活動を模索する機会を設ける、また進路面談を行うための環境整備を行う必要がある。
	職業観・勤労観を育成する。	望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。	A		
情報教育	タブレット等のICT機器を活用し、広く（グローバルに）、新時代（AI、Society 5.0）を主体的に、創造的に拓く態度を育てる。	情報モラル・情報リテラシーを身につけ、ICT機器を正しく効果的に活用することで、知識を体系・系統化、応用し、意見交流することができるようにする。	A	・HAD会を3回実施するとともに、生徒及び各教科からICTを効果的に活用した好事例を収集し、共有することができた。 ・ICT機器の活用に関わる生徒指導事案が発生したことから、情報モラル、リテラシーを高める指導を意識的に行う必要がある。	
グローバル人材育成	WWL事業実施校、グローバル・ネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。	平常の授業に加え、国内外の人々との対話や協働活動をおとして、多様性を尊重する態度及びグローバルな視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。	A	・WWLを自走するにあたり、三菱みらい財団や企業の協力を得て、大学、企業等と連携しながら充実した探究的な活動を実施することができた。 ・韓国海外研修、台湾海外研修を実施することができ、フランスのヌヴェール高校と短期交換留学に関する協定を結ぶことができた。	
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難を改善する。	A	・生徒を理解し、相談を継続するにあたり、教職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら対応できた。 ・対応している生徒に関する情報共有について、教職員同士でより密に連携を必要とする必要がある。	
読書指導	読書活動を推進する。	図書館からの情報発信や啓発活動、教科や総合的な探究の時間をはじめとする教育活動で、図書館利用を促進して読書活動を活性化し、豊かな教養と広い視野を育てる。	A	・図書部からの積極的な情報発信や、多様なイベントの企画・開催によって、生徒来館者数は1日平均で1.2人増加させることができた。 ・デジタル化された蔵書検索、レファレンス、電子書籍の閲覧等の活用を促進するとともに、教科と連携した書籍の充実にも努める。	
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。保護者向けデジタルツールを活用し、保護者へのタイムリーな情報発信を行う。	A	・学校説明会では生徒が運営スタッフとして活動することで、参加者が入学後の生徒像を具体的に想像できるように工夫したことで、説明会参加者は全会において前年を上回った。またHPを通じた広報も積極的に行った。	
施設設備・文書・情報管理	学習環境の質を確保する。	生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向けて施設・設備の充実を図る。	B	A	・猛暑によるエアコンの不調や、エアコンの更新に伴う石油ストーブの臭いなど課題があったが、教室変更等に対応した。 ・西体育館のバスケットリングを新しいものに変更した。 ・調査ごとに、答案の取扱いについて注意喚起を行った。
	個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。	紙文書、デジタルデータともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。	A		

評価の基準 A：十分達成できている。（目標以上の成果が得られている。） B：ほぼ達成できている。（ほぼ目標通りの成果が得られている。） C：達成できているとは言えない。（成果はあったが、目標は達成できていない） D：ほとんど達成できていない。（ほとんど成果が得られていない。）

学校関係者評価委員会による評価
保護者アンケートはおおむね肯定的であり、学校経営計画を見ても教職員が良く頑張っていると感じる。生徒募集も回復している。施設・設備の改修は学校だけで解決できる問題ではないが、生徒募集に関わることであり、早期の改修が望まれる。鳥羽高校は勉強と部活動に熱心に取り組む、一定の進学実績を出しつつ、社会で活躍できる人材を輩出してほしい。そのために、生徒の学力向上、教員の授業力向上を意識した取組を継続してもらいたい。

次年度に向けた改善の方向性
スクールポリシーを生かして、学校経営計画を作成し、その具体的方策と保護者アンケートの質問項目をリンクさせることで、学校と保護者の考え、感じ方のギャップなどがより明確になるのではないかと考えられる。施設・設備の改修を可能な範囲で進めながら、鳥羽高校の魅力である学習と部活動の充実を図っていく必要がある。特に学習面においては、教員の働き方改革を意識しつつ、学力を伸ばす授業の質の向上に努めることを前提としながら、コロナ禍で育ってきた生徒たちの状況も踏まえ、生徒の多様性を念頭に置いて、丁寧な関わり方が求められる。